

## グラウンドカバープランツとしての イブキジャコウソウによる農地法面の植生管理

寒冷地でのグラウンドカバープランツとして、イブキジャコウソウの法面被覆能力が高く、雑草抑制に効果があることが確認されました。

また、イブキジャコウソウは容易に自家増殖ができ、手植え栽培でも定植年の適切な管理を行うことで法面被覆が可能であることがわかりました。

農家等の方々が簡単に農地法面の植生管理として、イブキジャコウソウを活用できるように、繁殖技術を紹介します。

### 1 挿し木増殖技術

挿し木の実施時期は、採穂株が萌芽している4月末が良いです。天挿し（頂芽+1節）または管挿し（1節）で、節が僅かに培土に埋まる方法で、約1ヶ月で90%以上が定植苗に育成できます（表1）。

表1 管挿しにおける挿し穂の調整方法と育苗成率

挿し木時期	調整方法	挿し木数	育苗成数	育成率(%)	備考
4月27日	1節	287(本)	269(本)	93.7	2節区は挿し穂長が長く、萎れによる欠株が多い
	2節	188	168	89.4	

\*いずれの調整方法においても天挿し、管挿し混在の結果である。



セル苗の根鉢

### 2 育苗管理と管理労力

ア 挿し木の手順や育苗管理の概要は表2のとおりです。

イ 移植1年目は、土壌や天候条件にもよるが、雑草拔取りや水やり等の適切な管理が必要です。法面に定着した場合、雑草の抜き取り労力は、100㎡当たり植栽当年には15時間、翌年度には11時間が必要です（表3）。

表2 挿し木の手順と育苗管理の概要

項目	具体的実施作業内容
挿し床	200セルのトレーに、市販の育苗用土を詰めて吸水させて挿し床とした。
挿し木	1節を含む3~5cmに調整した挿し穂を、僅かに節が埋まる程度の深さで挿した。
温度	育苗中は最低15℃、最高25℃以下で管理した。
水	挿し木後1週間はトレーの高さの約1/2の水位でプール育苗し、その後直直頭上灌水に切り替えた。
光	プール育苗期間中は40~60%の遮光シートを被せ、その後は解除した。
肥料	育苗期間中の追肥は実施していない。



定植1年後の開花状況

表3 現地実証における作業労力（時間/100㎡）

	挿し木	育苗管理	施肥	定植	水やり	雑草管理	合計
1年目	13	12	5	12	5	10	57
2年目	-	-	-	-	-	8	11

### 3 活用上の留意事項

ア イブキジャコウソウは木本類に属し、2~3年でマット形成し高さが20cm程度になるため、水田畦畔の被覆には不適です。農地法面に植栽して下さい。

イ 開花最盛期は6月下旬から7月中旬ですが、10月頃まで開花が断続的に続くので、斑点米カメムシの薬剤防除の際は、ミツバチへの影響に注意して下さい。